

7月までの猛暑が輸送に与えた影響

気象庁発表では、7月は多くの地域で平均気温が2～3度以上平年を上回る猛暑となり、東京など20地点で7月の月平均気温の最高値を更新したが、この猛暑が輸送にどのような影響を与えたかを関係交通業界の主要事業者からヒアリングにより聴取し、下表のようにとりまとめた。

なお、影響については、一部業種を除き、具体的な統計数値に基づくものではなく、各事業者の感触をまとめたものであることに留意されたい。

業 種 (ヒアリング事業者等)	猛暑が与えたと考えられる影響
鉄 道 貨 物 (J R 貨 物)	コンテナで飲料、酒類が増加 *7月前年同月比：飲料110%、ビール110%
国 内 航 空 貨 物 (主 要 3 社)	生鮮野菜が増加 *北海道から関東向けを中心に葉菜類が前年に比べ2割強増加(1社) *生鮮野菜が増加(7月前年同月比：114%)(1社)
ト ラ ッ ク (主 要 2 6 社)	飲料、酒類、夏物家電等が増加傾向 *飲料：増加10社、変わらず5社、減少1社 *酒類：増加4社、変わらず7社、減少1社 *家電(エアコン、扇風機等)：増加11社、変わらず6社、減少1社 (注)取扱いなし、無回答等は除く *その他、重油、夏物衣料、ガラス(ビール瓶等)等が増加したという回答あり
内 航 タ ン カ ー (主 要 8 社)	黒油(重油)が増加 *電力需要増加等を背景に火力発電用の重油が増加(3社)
旅 客 関 係	鉄道はあまり影響なし *暑すぎると予約制でない近場の人出は鈍る傾向があるので、多少影響が出ている可能性あり
	バス・タクシーは大都市部で増加 *猛暑になるほど冷房を求めて近距離客が増加